



越前市庁舎



地中熱



越前市庁舎

地域の伝統産業の素材・技法を活用した新庁舎はまちのシンボル

越前市は福井県の中央部に位置し、「大化の改新」のころには越の国の国府が置かれ、北陸地方の政治・経済・文化の中心地として栄えてきた。平安時代には「源氏物語」の作者である紫式部が、生涯でただ一度、京都を離れ、多感な少女時代を過ごした地である。

本庁舎建設は、「まちの活性化とまち空間再生の大きな契機とする」ことを基本理念とし、コンパクトで持続的に発展するまちづくりの拠点となるべく2019年10月に竣工、20年1月から供用を開始した。

敷地内には噴水ひろばと芝生ひろば、ひろば兼駐車場が広がり、行政機関・市民利用機能の両方を備える施設を実現している。庁舎建設にあたって



井水ヒートポンプ

は、越前市のさまざまな伝統産業(越前和紙・越前打刃物・越前指物・越前瓦)を設計に取り入れることで、越前市のシンボルとして地場産業をアピールしている。

エネルギー消費を最小限に抑える最新式の各種システムを導入

本庁舎は、自然エネルギー利用の観点から注目すべき手法が導入されている。旧庁舎で生活用水として利用していた既存井戸の豊富な井水を多段階に利用し、空調熱源機には井水ヒートポンプチャラーを採用している。年間を通してほぼ一定温度である井水を熱源水とすることで、ヒートポンプの高効率運転を実現している。さらに、各空調機への冷水送水温度を12℃、還り温度を20℃という中温度域で行っており、ヒートポンプ機器効率の向上、搬送動力の低減を実現している。また、空調熱源設備は、電気とガスのベストミックス方式とすることで、電力の負荷平準化と災害時のリスク分散を図った。

他にも、高性能Low-E複層ガラスによる日射侵入抑制・高断熱化、LED照明や人感センサーによる照明の制御、

発電しながら熱を回収して利用するマイクロコージェネレーションシステム、吸着剤を用いて空気中の水分を直接除去するデシカント空調、赤外線を用いた人検知センサーにより外気導入量をきめ細やかに制御するオンデマンド環境制御システムなど、エネルギー消費を最小限に抑えるために多くのシステムが採用されている。

今後のさらなる省エネルギーの実現のため、システム運用開始後のマネジメントも行っている。中央監視設備で温度・湿度・エネルギー量などの各データを収集・分析し、運用改善チューニングを行うことで、継続的な省エネルギー化の促進を目指している。

越前市庁舎

所在地：福井県越前市府中1-13-7
 建築設計：株式会社総合計画・株式会社建築事務所設計共同体
 建築施工：田中建設株式会社・北信建設株式会社・竹内工務店株式会社・三田村工務店JV、株式会社ウエキミ・株式会社木原・株式会社ササキ工業・北日本建設株式会社
 設備設計：株式会社総合計画・株式会社建築事務所設計共同体
 設備施工：河上電機株式会社・テラオライテック株式会社・道下電機株式会社・関本電設株式会社・テラオライテック株式会社
 正光設備株式会社・上野ガス株式会社・タケブタ管工株式会社
 株式会社アホリ管工株式会社・株式会社板倉設備株式会社・未来住建株式会社
 延床面積：12,679.76㎡
 竣工：2019年新設
 URL：https://www.city.echizen.lg.jp

■設備概要

井水活用ヒートポンプ
 323kW×1台[日本冷熱システム]

